

大学等名	静岡英和学院大学
プログラム名	数理・DS・AI教育プログラム(英和LL)

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

プログラムを構成する下記すべての授業科目を修得すること。
 ・ネットワーク・リテラシー:1年次、必修、通年開講科目 2単位
 ・数理・データサイエンス・AI基礎:1年次、必修、前期開講科目 2単位

必要最低科目数・単位数 科目 単位 履修必須の有無

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
数理・データサイエンス・AI基礎	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
数理・データサイエンス・AI基礎	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
数理・データサイエンス・AI基礎	2	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
数理・データサイエンス・AI基礎	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
ネットワーク・リテラシー	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット「数理・データサイエンス・AI基礎」(第2、3回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「数理・データサイエンス・AI基礎」第2、3回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「数理・データサイエンス・AI基礎」第2、3回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス「数理・データサイエンス・AI基礎」第2、3回目) ・人間の知的活動とAIの関係性「数理・データサイエンス・AI基礎」(第2、3回目) ・データを起点としたもの見方、人間の知的活動を起点としたもの見方「数理・データサイエンス・AI基礎」第2、3回目)
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第11、12回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第11、12回目) ・基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル「数理・データサイエンス・AI基礎」(第11、12回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「数理・データサイエンス・AI基礎」(第4、5回目) ・1次データ、2次データ、データのメタ化「数理・データサイエンス・AI基礎」(第4、5回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第4、5回目) ・データ作成(ビッグデータとアノテーション)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第4、5回目) ・データのオープン化(オープンデータ)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第4、5回目)
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第6、7回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「数理・データサイエンス・AI基礎」(第6、7回目) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「数理・データサイエンス・AI基礎」(第6、7回目) ・対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など生成AIの応用「数理・データサイエンス・AI基礎」(第6、7回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など「数理・データサイエンス・AI基礎」(第8回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など「数理・データサイエンス・AI基礎」(第8回目) ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など「数理・データサイエンス・AI基礎」(第8回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「数理・データサイエンス・AI基礎」(第8回目) ・認識技術、ルールベース、自動化技術「数理・データサイエンス・AI基礎」(第8回目) ・マルチモーダル(言語、画像、音声など)、生成AIの活用(プロンプトエンジニアリング)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第8回目)
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第9、10回目) ・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「数理・データサイエンス・AI基礎」(第9、10回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理的・法的・社会的課題 (ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第13回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「数理・データサイエンス・AI基礎」(第13回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「数理・データサイエンス・AI基礎」(第13回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第13回目) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス「数理・データサイエンス・AI基礎」(第13回目) ・AIサービスの責任論「数理・データサイエンス・AI基礎」(第13回目) ・データガバナンス「数理・データサイエンス・AI基礎」(第13回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介「数理・データサイエンス・AI基礎」(第13回目) ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第13回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)「数理・データサイエンス・AI基礎」(第14回目) ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取「数理・データサイエンス・AI基礎」(第14回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「数理・データサイエンス・AI基礎」(第14回目) ・サイバーセキュリティ「数理・データサイエンス・AI基礎」(第14回目)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での事例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類(量的変数、質的変数)「ネットワークリテラシー」(第6-9回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「ネットワークリテラシー」(第6-9回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い)「ネットワークリテラシー」(第6-9回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値「ネットワークリテラシー」(第6-9回目) ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)「ネットワークリテラシー」(第6-9回目) ・観測データに含まれる誤差の扱い「ネットワークリテラシー」(第6-9回目) ・打ち切りや欠測を含むデータ、層別の必要なデータ「ネットワークリテラシー」(第6-9回目) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)「ネットワークリテラシー」(第6-9回目) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列「ネットワークリテラシー」(第6-9回目) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「ネットワークリテラシー」(第6-9回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)「ネットワークリテラシー」(第6-9回目) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)「ネットワークリテラシー」(第6-9回目) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「ネットワークリテラシー」(第6-9回目) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「ネットワークリテラシー」(第6-9回目) ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど)「ネットワークリテラシー」(第6-9回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)「ネットワークリテラシー」(第6-9回目) ・データの集計(和、平均)「ネットワークリテラシー」(第6-9回目) ・データの並び替え、ランキング「ネットワークリテラシー」(第6-9回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート、BIツール)「ネットワークリテラシー」(第6-9回目) ・表形式のデータ(csv)「ネットワークリテラシー」(第6-9回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

数理・DS・AIが社会で活用されている現状と今後の可能性を具体的に知り、日常生活や仕事等で適切に使えるようになる基礎的能力が身に付く。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和5 年度

②大学等全体の男女別学生数 男性 421 人 女性 441 人 (合計 862 人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数										
人間社会学部	862	210	860	164	114	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	164	19%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	862	210	860	164	114	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	164	19%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

⑦ 具体的な構成員

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	19%	令和6年度予定	50%	令和7年度予定	75%
令和8年度予定	100%	令和9年度予定	100%	収容定員(名)	860

具体的な計画

本教育プログラムの申請科目「数理・データサイエンス・AI基礎」(令和5年度開設)は、卒業必修科目である。学生は必ず履修することになるため、令和5年度以降は収容定員に対する履修率が向上していく予定である。
また、申請科目「ネットワーク・リテラシー」については、いくつかクラスを設定し、開講日を分け、学生が履修しやすいように工夫をしている。再履修者には、再履修限定のクラスを設けパソコン操作等が苦手な学生へ負担のないよう配慮している。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

プログラムを構成する科目は、全て卒業必修科目となっているため、本学に入学した学生は卒業するまでに数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度のリテラシーレベルに相当する技術を修得できる体制を構築している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本教育プログラムの申請科目は、1年次から履修が可能で、尚且つ卒業必修科目である。そのため、1年生が最初に受ける履修ガイダンスにて、その他の必修科目と一緒に学生へ必ず履修登録するよう教員から周知している。
また、ガイダンス資料には、学生が履修登録を間違えないよう一目で必修科目が一覧でわかる表を配付している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

「数理・データサイエンス・AI基礎」については、オンライン (Microsoft Teams) での開講とし、学生が自宅でも受講できるように授業を展開している。その他にも、学内で学生が自由にインターネット接続できるようWi-Fiエリアを増やし、オンライン授業に支障がないように施設環境を整えている。
また、「ネットワーク・リテラシー」は少人数のクラス制で個々への指導を強化している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

「数理・データサイエンス・AI基礎」科目は、オンライン (Microsoft Teams) で授業を展開しているということもあり、同アプリのチャット機能を使用し、いつでも質問・相談等を行うことができる。また、教員のオフィスアワーを授業やシラバス等で学生に周知しており、対面での質問・相談を行うことができる環境である。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

情報システム委員会	
(責任者名) 内山 尚美	(役職名) 情報システム委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本教育プログラムの構成科目「数理・データサイエンス・AI基礎」「ネットワーク・リテラシー」は卒業必修科目であるため、入学した全学生が履修する。 人間社会学部…履修者数164名、修了者数114名(令和5年度実績)
学修成果	各科目の履修者の成績評価(GPA等)をもとに学習成果を把握し、GPAを参考にした履修指導を行い、GPAは学習成果を図る指標として活用されている。本プログラムに関しても同様に学習成果を測定する。 また、「学生による授業改善のためのアンケート」の結果をととして学生の理解度を把握していく。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本教育プログラムに限らず、本学では「学生による授業改善のためのアンケート」を全科目実施している。本プログラムのアンケートの結果を分析することで、学生の理解度を把握し、問題がある場合には改善提案を策定していく。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本プログラムを構成する授業科目は、卒業必修科目であるため、必ず履修登録を行うよう新入生ガイダンス等で周知している。 また、本教育プログラムに限らず、本学では「学生による授業評価アンケート」を全科目実施している。結果を、学内公開し、学生の授業に対する理解度を把握することで、積極的な履修を促していく。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラムを構成する科目は、すべて卒業必修科目としているため、収容定員に対する履修率は向上していくものと思われる。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本学キャリア支援課が、卒業生に向けて定期的に卒業生調査を実施しているため、今後本プログラム修了者の進路、活躍状況等を把握し、修了者の進路、活躍状況等を把握することは可能である。</p> <p>今後、本学と協定を結んでいる地方自治体や企業等に、教育改善に関する助言等を定期的にいただき、プログラムのブラッシュアップをしていく予定である。 また、本学学生の就職先企業等にもアンケートにより意見を集める予定となっている。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>「数理・データサイエンス・AI基礎」において、データサイエンスの実際の最先端活用事例を紹介することで学生の興味関心を高め、学ぶ楽しさや学ぶことの意義を理解させている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>FD委員会において、授業評価アンケートの結果等を踏まえ、学生が興味関心を持ちやすい身近な事例を交えて授業を展開するなど、学生の分かりやすさの観点から講義の内容の改善、充実を検討し、授業の水準の維持・向上を図っていく。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分		
@	1 学年	2	@		
担当教員					
中原 陽三					
開講学科					
人間社会学部					
添付ファイル					
授業の目的と到達目標	生活や大学での研究等に必須のネットワークリテラシ（情報倫理を含む、ネットワーク時代の情報リテラシーで、「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」のデータリテラシーを含める）を入学初年度に修得する。「ネットワークをPCでよく使えるようになること」（総合自己評価）が到達目標である。				
授業内容	インターネット上のLANに有線か無線で接続したWindows PCを一人一台ずつ用いて実習する（実習項目は、セキュリティ管理、OS、LAN、インターネット、クラウド（Office 365 ProPlus/Education（OneDriveなど）、大学WebメールとGmail）、タッチタイピング、Officeの利用、データリテラシー、Excelによる大規模データの扱い、Pythonの基本、スマホとPCの連携、作図、動画作成、Web頁作成（HTML・CSS）と本学サーバへの転送・公開、その他）。受講生は習熟度に応じて指定されたクラスで、下記1～30回を基本的に適宜修正された内容を学ぶ。				
アクティブラーニング型授業	○				
科目とディプロマポリシーとの関係 1:知識・理解 2:技能・能力 3:問題発見・解決力 4:ジェネリックスキル 5:市民性の涵養 6:自律性・生涯学習力	学科	人間社会	コミュニティ福祉	現代コミュニケーション	食物
	DP	1, 2, 3, 4, 5, 6	1, 2, 3, 4, 5, 6		
授業計画	第1回	学習の心構え。学習方法。Windowsの基本と操作（以降、W基操）その1（マウス操作、OSとその役割、起動時の動作）。情報倫理（ビデオ）。LINEグループの作成。W基操その2（応用ソフトの起動と終了、Window操作（リサイズ、移動等）、ファイルとフォルダ）。			
	第2回	ノートPC相談窓口などの確認。プロキシ設定とインターネット接続（有線と無線）確認と本学の解説。HP閲覧・検索1（基本）。ウイルスソフトとWindows Updateの確認と解説。W基操その3（ファイルとその操作）-課題：階層ファイル構造を指定通り作成。			
	第3回	日本語FEPとその使用方法の確認等。タッチタイピングとその練習方法（Home Positionなど）。TypeQuick（以下、TQ）の登録、練習（進め方も適宜解説）、姿勢矯正。ネットワークフォルダへのアクセスとプリンタの設定について。宿題：毎日30分程のTQ練習（最終提出まで）。			
	第4回	TQ練習2、姿勢矯正。TQ練習成績の印刷とTQ登録の修正。「Office365 - 静岡英和学院大学」へのサインイン。「Office365 - 静岡英和学院大学」のOneDrive利用とノートPCとの同期。TQ練習データファイルのバックアップ（PC、LAN、OneDrive）。			
	第5回	Chromeの設定。大学Webメールサイトへのサインイン、大学付与メールアドレスからのメール送信（メールの一般的なレイアウト）、署名作成。Googleアカウントの登録とGmail使用。Gmailの設定（署名など）。Gmailにおけるファイル添付送付方法。			
	第6回	TQ練習3。データを読む（「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」（以降「LMC」と記載する）の「基礎」に準拠）。			
	第7回	TQ練習4。データを説明する（「LMC」の「基礎」に準拠）。			
	第8回	TQ練習5。データを扱う（「LMC」の「基礎」に準拠）。			
	第9回	TQ練習6。データを扱うその2（「LMC」の「基礎」に準拠）。			
	第10回	夏休みの課題提示。「Office365 - 静岡英和学院大学」のOneDriveにおける指定フォルダの作成と担当教員との共有。教科書用ファイルのダウンロードと展開（ファイル操作）。教科書によるWord・Excel・PowerPointの実習（以降、教科書実習）その1。			
	第11回	Office Onlineについて。教科書実習その2。スマホ版Gmailの利用。スマホでOneDriveを使用			

	<p>きるように設定。スマホからOneDriveの指定共有フォルダへ写真をアップ。スマホ版Wordの利用。宿題：TQ課題条件のクリア。</p> <p>第12回 Python (Google Colaboratoryの利用) その1</p> <p>第13回 Python (Google Colaboratoryの利用) その2</p> <p>第14回 Python (Google Colaboratoryの利用) その3</p> <p>第15回 TQの最終提出 (速度と正解率の条件あり。印刷物を提出する)。修了済みのTQ練習成績をPDF印刷して提出する課題。夏休みの課題内容 (スマホ版Wordも使用) の確認。</p> <p>第16回 夏休みの課題の提出確認。後期の概要。PP課題の提示。Office365の「手書き簡易図形の自動整形、アイコン (SVG)、SmartArt」。draw.ioの素材確認。</p> <p>第17回 説明図作成1：スマホのCGアプリの利用 (課題①～②の説明、実演、準備。課題①：手書き図を用意する。課題②：手書き図をスマホで自動トレースしてSVGにする)。</p> <p>第18回 説明図作成2：課題③：SVGへ色付けやテキスト入力を行う (スマホやレイヤ機能付きCGソフトを利用)。説明図作成3：考えの視覚化 (マインドマップ)</p> <p>第19回 「HTML+CSS」その1 (教科書に沿って実施する課題の提示と準備)：ファイルの準備と課題開始。教科書に沿って進め、次回に続ける。説明図作成3 (続き)。</p> <p>第20回 「HTML+CSS」その2：拡張子がhtmlのファイルに対し、教科書に沿って「内容を記入・編集して保存。ブラウザで表示を確認。適宜内容を修正。再度表示を確認」を繰り返す。</p> <p>第21回 「HTML+CSS」その3 (教科書の続きと、確認試験内容の提示)。Gmailの設定 (発信アドレス)。大学メールサーバからGmailへの転送設定。OfficeソフトからDisk非経由でOneDriveを利用 (直接保存、直接呼出し)。</p> <p>第22回 「HTML+CSS」その4 (教科書の続きと、提出課題の提示)。Twitter登録と災害情報。</p> <p>第23回 「HTML+CSS」その5 (続き)。PCからのLINE利用設定・利用。Yammer (PCとスマホ)。PPからの動画作成。</p> <p>第24回 「HTML+CSS」その6 (続き)。フォトからの動画作成・編集その1。Stream。</p> <p>第25回 FFFTPのダウンロード・インストール・サーバ登録・接続。フォトからの動画作成・編集その2。YouTubeチャンネルの開設。YouTubeへアップ (非公開設定)。インターネットにおけるルール&マナー検定 (以降、イルナ検定) 課題 (スマホ)。</p> <p>第26回 FFFTPによるインターネット上のファイル操作 (サーバのホームディレクトリへpublic_htmlを作成・パーミッション指定、そのフォルダへファイル転送、公開の確認、お気に入りへ追加)。イルナ検定課題2 (以降適宜)。</p> <p>第27回 「HTML+CSS」その7 (応用課題の提示。情報倫理、HP閲覧・検索 (フリー素材 (主に画像とする) の収集。素材があった頁のアドレスも記録しておく)、音声録音など)</p> <p>第28回 同上および応用課題の提示2 (デジタルデータ・画像等取り込み、リンクやCSSの設定、それぞれローカルでの確認など) ならびにYouTube動画の埋込</p> <p>第29回 同上。次の①～②について適宜実施する：①ブロック型ビジュアルプログラミング言語 (Scratch など)、②アルゴリズム課題 (アルゴリズムその他)。</p> <p>第30回 「HTML+CSS」その8 (課題と期末試験の確認)。</p>
事前・事後の学習時間・学習内容について	<p>2単位の演習科目 (30回) のため、規則として30時間の授業外学修を想定しています (平均すると、30回の各回に60分ずつ)。適宜出す課題への取組み、授業での疑問を解消する学習、発展学習、予習等がその学習内容になります。教科書・オンラインの授業資料等を参考にしても残る疑問は、友達や教員へ質問して、次回授業までに解消しておいて下さい。</p> <p>授業前：提出課題に計画的に取り組んでください (30分)。授業後：疑問解消に努めてください (30分)。</p>
課題・試験のフィードバック方法	<p>試験の場合は模範解答を授業用サイトに公表する。課題については、予めアナウンスする方法により、再提出や修正を適宜指示する場合がある。</p>
評価方法・基準	<p>授業参加状況、提出物、試験から総合的に判断します。授業参加状況を重視します。期毎に試験を行うか、課題を出しますが、クラス毎とクラス共通の両方を予定しています。また、TypeQuickが指定レベルま完了していなければ不可です (各クラス共通)。また、通年で70%以上の出席がなければ不可です (各クラス共通)。</p>

授業への取組（課題への取組を含む）40%+共通テスト30%+定期試験（あるいは最終レポート）30%					
教科書	NO	書籍名	著者名	出版社	ISBN
	1	情報リテラシー 総合編（Windows 11・Office 2021対応）		FOM出版	
	2	TYPEQUICK学校研修キット（USB版）		日本データパシフィック	
	3				
参考書	NO	書籍名	著者名	出版社	ISBN
	1	教養としてのデータサイエンス	北川源四郎／竹村彰 通・編 内田誠一／川崎能典／孝忠大輔／佐久間淳／椎名洋／中川裕志／樋口知之／丸山宏・著	講談社	978-4-06-523809-7
	2				
	3				
受講に伴う費用（教科書を除く）	なし				
主たる授業形態※ 学期途中に変更になることがあります。	オンライン授業		対面授業		併用
			○		
オフィスアワー	本科目は複数の教員が担当するため、オフィスアワーについては各担当者の授業科目の頁を参照してください。				
その他学生へのメッセージ	皆のために用いる大きな能力を身につけましょう。グレード別クラス編成とし、各グレードでは上記内容の教育内容と実施方法を、主にアプリケーション教育部分で調整します(ただし7回目～10回目における、データを読む、データを説明する、データを扱う、データを扱うその2については、どのグレードでもしっかり行います)。なお、担当教員によって、内容が細かい部分で異なることがあります。				
参考URL					
備考					

授業種類	実務家教員 <input type="checkbox"/> 実務家教員である <input checked="" type="checkbox"/> 実務家教員でない 実務経験 年数
------	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分		
@	1 学年	2	@		
担当教員					
中原 陽三					
開講学科					
人間社会学部					
添付ファイル					
授業の目的と到達目標	目的：数理・データサイエンス（DS）・AIを日常の生活や仕事等の場で適切に使いこなす基礎的素養を身に付ける。 到達目標：数理・DS・AIが社会で活用されている現状と今後の可能性を具体的に知る。				
授業内容	<p>生き方と学習の心構えについては、毎回触れる。また、数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム（以降、LMC）における導入、基礎、心得の学修内容のうち、「2. データリテラシー」以外を学んでいく（「2. データリテラシー」はネットワーク・リテラシーで学修する）。</p> <p>原則として実況型オンライン授業を行う。関連動画を授業の中で適宜視聴する。授業時間外の各自での視聴を指示する場合もある。また、ほぼ毎回提示する小テスト課題に対し、指定期限までに各自回答する。</p>				
アクティブラーニング型授業	×				
科目とディプロマポリシーとの関係 1:知識・理解 2:技能・能力 3:問題発見・解決力 4:ジェネリックスキル 5:市民性の涵養 6:自律性・生涯学習力	学科	人間社会	コミュニティ福祉	現代コミュニケーション	食物
	DP	1, 2, 3, 4, 5, 6	1, 2, 3, 4, 5, 6		
授業計画	第1回	オリエンテーション ①科目について（内容、評価、その他） ②受講に関する留意点・注意点 ③その他			
	第2回	LMCにおける「1. 社会におけるデータ・AI利活用 1-1. 社会で起きている変化」の学修内容： 社会で起きている変化を知り、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解する AIを活用した新しいビジネス/サービスを知る（その1）			
	第3回	LMCにおける「1. 社会におけるデータ・AI利活用 1-1. 社会で起きている変化」の学修内容： 社会で起きている変化を知り、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解する AIを活用した新しいビジネス/サービスを知る（その2）			
	第4回	LMCにおける「1. 社会におけるデータ・AI利活用 1-2. 社会で活用されているデータ」の学修内容： どんなデータが集められ、どう活用されているかを知る（その1）			
	第5回	LMCにおける「1. 社会におけるデータ・AI利活用 1-2. 社会で活用されているデータ」の学修内容： どんなデータが集められ、どう活用されているかを知る（その2）			
	第6回	LMCにおける「1. 社会におけるデータ・AI利活用 1-3. データ・AIの活用領域」の学修内容： さまざまな領域でデータ・AIが活用されていることを知る（その1）			
	第7回	LMCにおける「1. 社会におけるデータ・AI利活用 1-3. データ・AIの活用領域」の学修内容： さまざまな領域でデータ・AIが活用されていることを知る（その2）			
	第8回	LMCにおける「1. 社会におけるデータ・AI利活用 1-4. データ・AI利活用のための技術」の学修内容： データ・AIを活用するために使われている技術の概要を知る			
	第9回	LMCにおける「1. 社会におけるデータ・AI利活用 1-5. データ・AI利活用の現場」の学修内容： データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知る（その1）			
	第10回	LMCにおける「1. 社会におけるデータ・AI利活用 1-5. データ・AI利活用の現場」の学修内容： データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知る（その2）			
	第11回	LMCにおける「1. 社会におけるデータ・AI利活用 1-6. データ・AI利活用の最新動向」の学修内			

	容： データ・AI利活用における最新動向（ビジネスモデル、テクノロジー）を知る（その1）
第12回	LMCにおける「1. 社会におけるデータ・AI利活用 1-6. データ・AI利活用の最新動向」の学修内容： データ・AI利活用における最新動向（ビジネスモデル、テクノロジー）を知る（その2）
第13回	LMCにおける「3. データ・AI利活用における留意事項 3-1. データ・AIを扱う上での留意事項」の学修内容： データ・AIを利活用する上で知っておくべきこと
第14回	LMCにおける「3. データ・AI利活用における留意事項 3-2. データを守る上での留意事項」の学修内容： データを守る上で知っておくべきこと
第15回	まとめ

事前・事後の学習時間・学習内容について	「教科書、参考文献（資料）、指定動画視聴による予習」（合計90分）と、「提出課題（小テスト課題を含む）への取り組みと復習」（合計90分）
---------------------	--

課題・試験のフィードバック方法	課題・試験については、都度オンラインでフィードバックする。
-----------------	-------------------------------

評価方法・基準	授業参加状況、提出物、試験から総合的に判断します。 授業への取組（課題への取組や提出状況を含む）50%＋定期試験（あるいは最終レポート）50%
---------	--

教科書	NO	書籍名	著者名	出版社	ISBN
	1	教養としてのデータサイエンス	北川源四郎 ／竹村彰 通・編 内 田誠一／川 崎能典／孝 忠大輔／佐 久間淳／椎 名洋／中川 裕志／樋口 知之／丸 山宏・著	講談社 (2021/7/2 1)第2刷	978-4-06-523809-7
2					
3					

参考書	NO	書籍名	著者名	出版社	ISBN
	1	徹底攻略データサイエンティスト検定問題集 [リテラシーレベル] 対応	小縣 信也/ 斉藤 翔汰/ 山田 弦太 朗	インプレ ス (2022/4/2 1)	978-4295013815
2					
3					

受講に伴う費用（教科書を除く）	なし
-----------------	----

主たる授業形態※ 学期途中に変更になることがあります。	オンライン授業	対面授業	併用
	○		

オフィスアワー	火曜日 1 時限
---------	----------

その他学生へのメッセージ	数理・データサイエンス・AIが既にさまざまな分野で活用されていることと、今後これらを人々の幸福のために今までより広く深く活用できる大きな可能性を知ろう。また、日常の生活や仕事等の場でこれらを適切に使いこなす基礎的素養を身に付け、人々の幸福のために適切に使ってこよう。
--------------	---

参考URL	表示名：数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム URL：http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/pdf/model_literacy.pdf 説明：モデルカリキュラム（リテラシーレベル）
-------	--

備考	
----	--

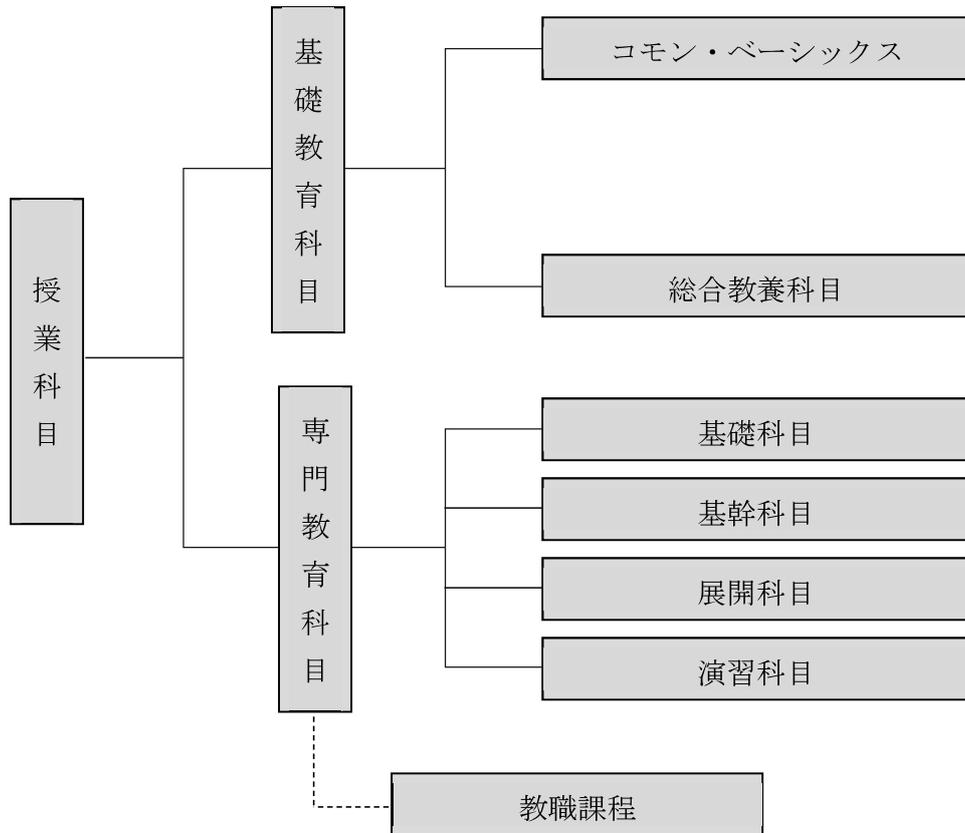
授業種類	実務家教員 <input type="checkbox"/> 実務家教員である <input checked="" type="checkbox"/> 実務家教員でない 実務経験
------	--

	年数
--	----

人間社会学科 (Department of Humanities and Social Sciences)

授業科目の分類

2023 年度入学生用



卒業要件単位数

		科目群	必修	選択		卒業要件単位
基礎教育科目	コモン・ベーシックス	日本語表現力	2	2	6 ※	20
		外国語表現力	1	5		
		情報処理	2	—		
		健康と余暇	—	2		
基礎教育科目	総合教養科目	キリスト教と人間の理解	2	2	2 ◎	14
		現代社会と国際理解	—	4		
		科学と環境の理解	—	4		
		地域の理解				
専門教育科目	専門教育科目	基礎科目	10	8	18 ★	90
		基幹科目	—	24		
		展開科目	—	20		
		演習科目	10	—		
合計			27	97		124

※さらにコモン・ベーシックス全体から6単位選択する。

◎さらに総合教養科目全体から2単位選択する。

★さらに基礎科目、基幹科目、展開科目全体から18単位選択する。

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	期 間	担 当 者	備 考
		必修	選択				
日本語表現力	日本語表現法	2		1	前期	菊池綾香 (A 留学生)、鈴木正和・大槻知世(B)、磯貝信二(C 再履修)	必修 2 単位を含め 4 単位以上
	日本語朗読法		2	1	前期・後期	今村政司(A 前期・B 後期)	
	日本語読解法		2	1	後期	大槻知世・菊池綾香 (A 留学生)、鈴木正和・古郡康人(B)	
	日本語文章構成法		2	1	前期・後期	畑恵里子(A 前期・B 後期)	
外国語表現力	総合英語基礎	1		1	前期	バトリック(A)、松永ジョアンナ(B)、マックローリー(C)、鬼塚大輔(D)、幸田明子(E)、森 秀明(F・I・L)、鈴木恵子(G・J)、森 雅人(H・K)	必修 1 単位を含め 6 単位以上
	英語リスニング&スピーキング I		1	1	前期	ハリントン(A)、クレイナー(B)	
	英語リスニング&スピーキング II		1	1	後期	ハリントン(A)、クレイナー(B)	
	英語スピーチクリニック		1	1	前期・後期	松永ジョアンナ(A 前期・B 後期)	
	英語リスニングスキル		1	1	前期・後期	松永ジョアンナ(A 前期・B 後期)、ハリントン(C 前期)	
	英語ポキャブラリービルディング		1	1	後期	ピーターズ	
	英語構文理解		1	1	後期	鬼塚大輔(A)、ピーターズ(B)	
	英語文章理解		1	2	前期・後期	鬼塚大輔(A 前期)、森 秀明(B 後期)	
	英語文章表現法		1	2	前期	幸田明子(A)、鬼塚大輔(B)	
	総合英語応用 I		1	1	後期	開講せず	
	総合英語応用 II		1	1	後期	松永ジョアンナ	
	総合英語応用 III		1	1		開講せず	
	総合英語応用 IV		1	1	後期	鈴木恵子	
	総合英語応用 V		1	1	後期	鬼塚大輔	
	フランス語 I		1	1	前期	今野喜和人(A・B)	
	フランス語 II		1	1	後期	今野喜和人	
	ドイツ語 I		1	1	前期	小柴浩稔	
	ドイツ語 II		1	1	後期	小柴浩稔	
	中国語 I		1	1	前期・後期	望月裕之(A・B)	
	中国語 II		1	1	後期	望月裕之	
韓国語 I		1	1	前期・後期	朴 鳳順(A・B)		
韓国語 II		1	1	前期・後期	朴 鳳順(A・B)		
日本語 I (留学生対象)		1	1	前期	菊池綾香		
日本語 II (留学生対象)		1	1	後期	菊池綾香		
情報処理	<u>ネットワーク・リテラシー</u>	2		1	通年	湯瀬裕昭(A)、渡邊貴之(B・C)、渡辺 司(D・E)、柳川信一(G・J)、沖山貴裕(H・I)、中原陽三(F)、永田正樹(Z 再履修 前期 2 コマ)	必修 2 単位を含め 2 単位以上
	情報発信演習 I		1	1	前期・後期	渡辺 司(A 前期・C 後期)、金 承子(B 前期)	
	情報発信演習 II		1	2	前期	沖山貴裕	
	Web クリエイター演習		1	2		開講せず	
	社会基盤の ICT 概論		2	2	後期	湯瀬裕昭	
	アルゴリズムとプログラミングの基本		2	2	前期	武藤伸明	
データベース		2	2	前期	湯瀬裕昭		

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	期 間	担 当 者	備 考	
		必修	選択					
コ モ ン ・ ベ ー シ ッ ク	健康余暇論		2	1	後期	赤田信一	2 単位以上	
	健康行動学（健康・医療心理学）		2	1	後期	赤田信一		
	スポーツ実技 I		1	1	前期・後期	祝原 豊(バスケットボール A・B)		
					前期・後期	伊藤麻希(ダンス A・B)		
	スポーツ実技 II		1	1	前期・後期	江間諒一(フィットネス A・B)		
					前期・後期	黒岩一雄(バドミントン A・B)		
	ヨガ I		1	1	前期	佐鳥明子(JU フィットネスインストラクター)		※単位互換科目
	ヨガ II		1	1	後期	佐鳥明子(JU フィットネスインストラクター)		※単位互換科目
エアロビクス I		1	1	前期	佐鳥明子(JU フィットネスインストラクター)	※単位互換科目		
エアロビクス II		1	1	後期	佐鳥明子(JU フィットネスインストラクター)	※単位互換科目		
コモン・ベーシックス全体からさらに 6 単位を選択のうえ計 20 単位以上								
総 合 教 養 目	キ リ ス ト 教 と 人 間 の 理 解	キリスト教学	2		1	後期	佐々木謙一	必修 2 単位を 含め 4 単位以上
		キリスト教と現代社会		2	1	前期	佐々木謙一	
		人間と哲学		2	1	後期	佐々木謙一	
		人間と教育		2	1	前期	金田健司	
		人間と文学		2	1	後期	古郡康人	
		人間の心と行動		2	1	後期	永山ルツ子	
	現 代 社 会 と 国 際 理 解	人間と社会生活		2	1	前期	毛利康秀	4 単位以上
		社会生活と法		2	1	後期	板倉美奈子	
		日本国憲法		2	1	前期	板倉美奈子	
		経済と社会		2	1	後期	勝田佳裕	
		現代の国際社会		2	1	前期	服部慶亘	
		歴史と社会		2	1	後期	毛利康秀	
		異文化の理解		2	1	後期	鈴木 瑞	
	科 学 と 環 境 の 理 解	生命の科学		2	1	前期	池谷和子	4 単位以上
健康と栄養科学			2	1	前期	杉本富士子		
自然と災害			2	1	後期	湯佐泰久		
科学技術と地球環境			2	1	後期	雨谷敬史		
地 域 の 理 解	静岡の自然と環境		2	1	前期	湯佐泰久	4 単位以上	
	静岡の歴史と文化		2	1	前期	小和田泰経		
	静岡の風土と文学		2	1	前期	古郡康人		
	地域創造フィールドワーク		2	1	後期	毛利康秀		
総合教養科目全体からさらに 2 単位を選択のうえ計 14 単位以上								
合計 34 単位以上								

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	期 間	担 当 者	備 考
		必修	選択				
基 礎 科 目	人間社会総論	2		1	前期	オムニバス	必修 10 単位を 含む 18 単位 以上履修
	人間学基礎	2		1	前期	佐々木謙一	
	心理学基礎 (心理学概論)	2		1	前期	桑島隆二	
	社会学基礎		2	1	前期	志田倫子(A)、毛利康秀(B)	
	経済学基礎		2	1	後期	菅 隆彦	
	経営学基礎		2	1	後期	川島美奈子	
	日本文化論基礎		2	1	前期	畑恵里子	
	英米文化論基礎		2	1	後期	狭間敏行	
	言語学基礎		2	1	後期	大槻知世(前半)・石山久美(後半)	
	社会福祉総論Ⅰ	2		1	前期	植田智也	
	社会福祉総論Ⅱ		2	1	後期	植田智也	
	地域福祉論Ⅰ		2	1	前期	梓川 一	
	地域福祉論Ⅱ		2	1	後期	梓川 一	
	教理・データサイエンス・AI 基礎	2		1	前期	中原陽三	
基 幹 科 目	心理学研究法		2	2	前期	永山ルツ子	24 単位以上 選択
	心理学統計法Ⅰ		2	2	後期	林 智幸	
	心理学実験Ⅰ		2	2	前期	波多野純・林 智幸・永山ルツ子・桑島隆二	
	発達心理学		2	2	前期	片岡 祥	
	教育・学校心理学		2	2	後期	林 智幸	
	学習・言語心理学		2	2	前期	林 智幸	
	心理学特殊講義		2	2	前期	林 智幸・波多野純・桑島隆二	
	社会・集団・家族心理学		2	2	後期	波多野純	
	臨床心理学概論		2	2	後期	桑島隆二	
	金融論		2	2	前期	勝田佳裕	
	ミクロ経済学		2	2	後期	菅 隆彦・市川充俊	
	マクロ経済学		2	2	後期	菅 隆彦	
	マーケティング論		2	2	前期	川島美奈子	
	起業・経営戦略実践論		2	2		開講せず	
	簿記原理		2	2	前期	金 承子	
	法学概論		2	2	後期	井柳美紀	
	民法		2	2	前期	朱 曄	
	商法		2	2	後期	西川義晃	
	ビジネスと法		2	2	後期	知念晃子	
	観光学		2	2	前期	洪 明真	
	文化観光論		2	2	後期	洪 明真	
	文化人類学		2	2	前期	川崎一平	
	観光学研究法		2	2	前期	郭 育仁	
	アンケート調査法		2	2	後期	郭 育仁	
	地域社会学		2	2	後期	志田倫子	
	社会調査法		2	2	前期	毛利康秀	
	観光地域フィールドワーク論		2	2	後期	毛利康秀	
イギリス文化論		2	2	後期	鬼塚大輔		
アメリカ文化論		2	2	前期	狭間敏行		
Communicative EnglishⅠ		2	2	前期	クレイナー		
Communicative EnglishⅡ		2	2	後期	クレイナー		

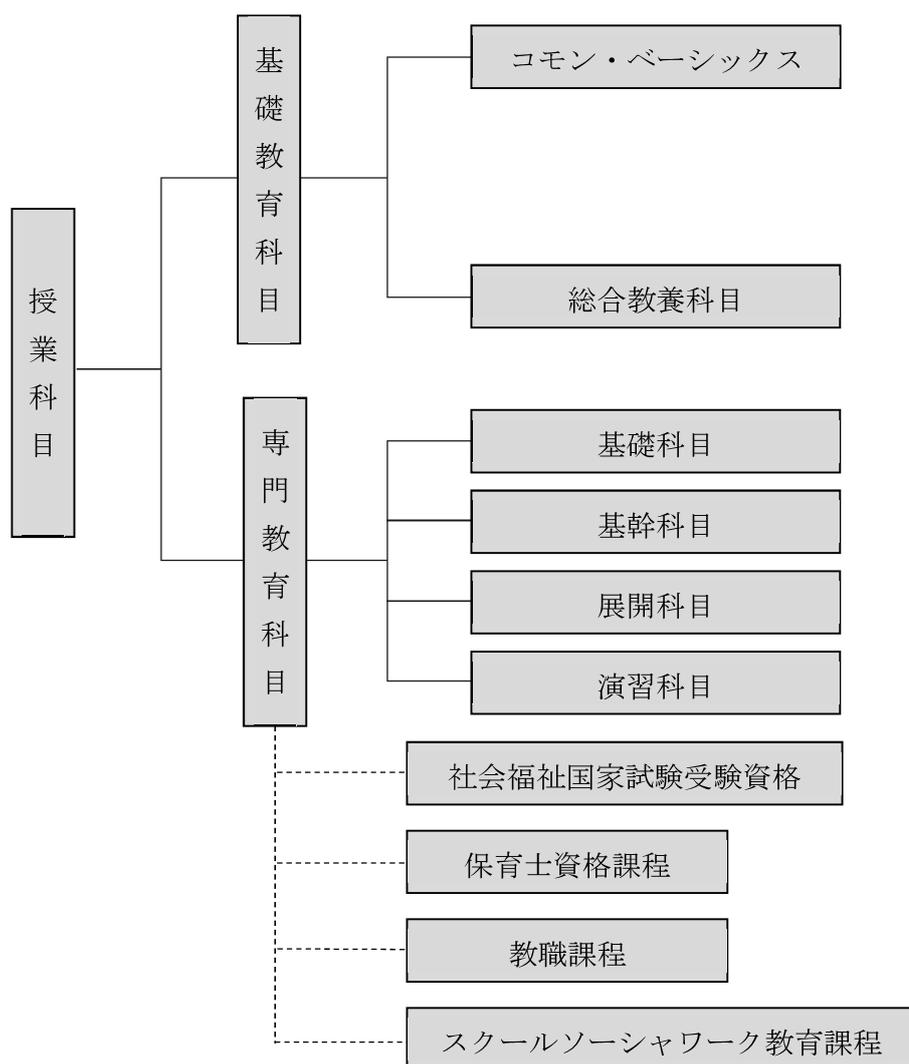
	授 業 科 目	単位数		開講 学年	期 間	担 当 者	備 考		
		必修	選択						
基 幹 科 目	国際ビジネスコミュニケーション		2	2	後期	狭間敏行	24 単位以上 選択		
	国際観光コミュニケーション		2	2	後期	ハリントン			
	日本伝統文化論		2	2	後期	畑恵里子			
	日本近代文化論		2	2	前期	鈴木正和			
	言語文化論		2	2	前期	大槻知世			
	演劇論		2	2	前期集中	宮城 聡			
	キャリア形成論		1	1	前期	波多野純			
	インターンシップ		1	3	集中	波多野純			
心 理 メ ジ ャ ー	心理学統計法Ⅱ		2	3	前期	林 智幸	20 単位以上 選択		
	心理学実験Ⅱ		2	3	前期	林 智幸・波多野純			
	知覚・認知心理学		2	3	前期	永山ルツ子			
	感情・人格心理学		2	3	後期	林 智幸			
	神経・生理心理学		2	3	後期				
	産業・組織心理学		2	3	後期	波多野純			
	教育相談（心理学的支援法）		2	3	後期	桑島隆二			
	公認心理師の職責		2	3	前期	桑島隆二			
	心理的アセスメント		2	3	後期	桑島隆二			
	障害者・障害児心理学		2	3	後期				
	福祉心理学		2	3	後期	波多野純			
	司法・犯罪心理学		2	3	後期	ジェイムス册子			
	関係行政論		2	3	前期	江口昌克			
	心理演習		2	4	後期	桑島隆二			
	心理実習		2	3	集中	桑島隆二・林 智幸・波多野純			
	展 開 科 目	国際経済学		2	3	前期		菅 隆彦・市川充俊	20 単位以上 選択
		国際金融論		2	3	前期		勝田佳裕	
ファイナンス論			2	3	前期	菅 隆彦			
日本経済論			2	3	後期	勝田佳裕			
ソーシャル・ビジネス論			2	3		開講せず			
中小企業論			2	3		開講せず			
流通システム論			2	3	後期	川島美奈子			
会計学			2	3	後期	金 承子			
コンピュータ会計Ⅰ			2	3	前期	金 承子			
コンピュータ会計Ⅱ			2	3	後期	金 承子			
観光ビジネス事情			2	3	後期	郭 育仁			
観光デザイン論			2	3	前期	郭 育仁			
観光産業特論Ⅰ			2	3	前期	郭 育仁			
観光産業特論Ⅱ			2	3	後期	郭 育仁			
観光学特殊講義Ⅰ			2	3	前期	洪 明真			
観光学特殊講義Ⅱ			2	3	前期集中	洪 明真			
国際観光演習			2	3	後期	洪 明真			
国際関係論			2	3	前期	服部慶亘			
地域政策論			2	3	後期	毛利康秀			

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	期 間	担 当 者	備 考
		必修	選択				
展 開 科 目	英語文化メジャー		2	3	前期	芦澤久江	20 単位以上選択
			2	3	後期	狭間敏行	
			2	3	前期	ハリントン	
			2	3	前期	狭間敏行	
			2	3	後期	石山久美	
			2	3	前期	石山久美	
			2	3		開講せず	
			2	3	前期	石山久美	
			2	3	前期	クレイナー	
			2	3	後期	クレイナー	
		2	1	後期集中			
	日本語文化メジャー		2	3	後期	古郡康人	
			2	3	後期	畑恵里子	
			2	3	後期	鈴木正和	
			2	3	前期	鈴木正和	
			2	3	後期集中	上田日差し	
			2	3	後期	繁原 央	
			2	3	後期	大槻知世	
			2	3	前期	大槻知世	
			2	1	前期集中	畑恵里子	
			1	2	前期	鈴木千恵美	
			1	2	後期	鈴木千恵美	
			1	3	前期	中原陽三	
	1	3	後期	中原陽三			
基礎科目、基幹科目、展開科目全体からさらに 18 単位を選択のうえ 62 単位以上							
演 習 科 目	基礎演習Ⅰ	1		1	前期	鈴木、波多野、川島、畑、林、金、毛利、勝田、佐々木、郭、狭間、洪、大槻、菅、石山、桑島	必修科目 10 単位
	基礎演習Ⅱ	1		1	後期	ハリントン、鈴木、波多野、川島、畑、林、金、毛利、勝田、佐々木、郭、狭間、洪、大槻、菅、石山、桑島	
	基礎演習Ⅲ	1		2	前期	ハリントン、鈴木、波多野、川島、林、金、毛利、勝田、佐々木、郭、狭間、洪、大槻、菅、石山、桑島	
	専門演習Ⅰ	1		2	後期	ハリントン、鈴木、波多野、川島、畑、林、金、毛利、勝田、郭、狭間、洪、大槻、菅、石山、桑島	
	専門演習Ⅱ	2		3	通年	永山、ハリントン、鈴木、波多野、川島、畑、林、金、毛利、勝田、郭、狭間、洪、大槻、菅、石山、桑島	
	卒業研究	4		4	通年	永山、ハリントン、鈴木、波多野、川島、畑、林、金、毛利、勝田、郭、狭間、洪、大槻、菅、石山、桑島	
合計 90 単位以上							

コミュニティ福祉学科 (Department of Community and Social Welfare)

授業科目の分類

2023 年度入学生用



卒業要件単位数

		科目群	必修	選択		卒業要件単位
基礎教育科目	コモン・ベーシックス	日本語表現力	2	2	2 ※	14
		外国語表現力	1	3		
		情報処理	2	—		
		健康と余暇	—	2		
基礎教育科目	総合教養科目	キリスト教と人間の理解	2	2		12
		現代社会と国際理解	—	4		
		科学と環境の理解	—	4		
		地域の理解	—	4		
専門教育科目		基礎科目	10	4	4 ◎	98
		基幹科目	—	30		
		展開科目	—	40		
		演習科目	10	—		
合計			29	95		124

※さらにコモン・ベーシックス全体から2単位選択する。

◎さらに基礎科目、基幹科目、展開科目全体から4単位選択する。

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	社 会 福祉士	保 育 士	幼 稚 園 教 諭	期 間	担 当 者	備 考
		必修	選択							
日本語表現力	日本語表現法	2		1				前期	菊池綾香(A 留学生)、鈴木正和・大槻知世(B)、磯貝信二(C 再履修)	必修 2 単位を含 め 4 単位以上
	日本語朗読法		2	1				前期・後期	今村政司(A 前期・B 後期)	
	日本語読解法		2	1				後期	大槻知世・菊池綾香(A 留学生)、鈴木正和・古郡康人(B)	
	日本語文章構成法		2	1				前期・後期	畑恵里子(A 前期・B 後期)	
外国語表現力 コミュニケーション	総合英語基礎	1		1		◎	◎	前期	パトリック(A)、松永ジョアンナ(B)、マックローリー(C)、鬼塚大輔(D)、幸田明子(E)、森 秀明(F・I・L)、鈴木恵子(G・J)、森 雅人(H・K)	必修 1 単位を含 め 4 単位 以上
	英語リスニング&スピーキング I		1	1				前期	ハリントン(A)、クレイナー(B)	
	英語リスニング&スピーキング II		1	1				後期	ハリントン(A)、クレイナー(B)	
	英語スピーチクリニック		1	1		○	○	前期・後期	松永ジョアンナ(A 前期・B 後期)	
	英語リスニングスキル		1	1		○	○	前期・後期	松永ジョアンナ(A 前期・B 後期)、ハリントン(C 前期)	
	英語ボキャブラリービルディング		1	1		○	○	後期	ピーターズ	
	英語構文理解		1	1		○	○	後期	鬼塚大輔(A)、ピーターズ(B)	
	英語文章理解		1	2				前期・後期	鬼塚大輔(A 前期)、森 秀明(B 後期)	
	英語文章表現法		1	2		○	○	前期	幸田明子(A)、鬼塚大輔(B)	
	総合英語応用 I		1	1		○	○		開講せず	
	総合英語応用 II		1	1		○	○	後期	松永ジョアンナ	
	総合英語応用 III		1	1					開講せず	
	総合英語応用 IV		1	1				後期	鈴木恵子	
	総合英語応用 V		1	1				後期	鬼塚大輔	
	フランス語 I		1	1		○	○	前期	今野喜和人(A・B)	
	フランス語 II		1	1		○	○	後期	今野喜和人	
	ドイツ語 I		1	1		○	○	前期	小柴浩稔	
	ドイツ語 II		1	1		○	○	後期	小柴浩稔	
	中国語 I		1	1		○	○	前期・後期	望月裕之(A・B)	
	中国語 II		1	1		○	○	後期	望月裕之	
韓国語 I		1	1		○	○	前期・後期	朴 鳳順(A・B)		
韓国語 II		1	1		○	○	前期・後期	朴 鳳順(A・B)		
日本語 I (留学生用)		1	1				前期	菊池綾香		
日本語 II (留学生用)		1	1				後期	菊池綾香		
情報処理	<u>ネットワーク・リテラシー</u>	2		1		◎	○	通年	湯瀬裕昭(A)、渡邊貴之(B・C)、渡辺 司(D・E)、柳川信一(G・J)、沖山貴裕(H・I)、中原陽三(F)、永田正樹(Z 再履修 前期 2 コマ)	必修 2 単位を含 め 2 単位 以上
	情報発信演習 I		1	1		○	○	前期・後期	渡辺 司(A 前期・C 後期)、金承子(B 前期)	
	情報発信演習 II		1	2		○	○	前期	沖山貴裕	
	Web クリエイター演習		1	2		○	○		開講せず	
	社会基盤の ICT 概論		2	2				後期	湯瀬裕昭	
	アルゴリズムとプログラミングの基本		2	2				前期	武藤伸明	
	データベース		2	2				前期	湯瀬裕昭	

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	社 会 福祉士	保 育 士	幼 稚 園 教 諭	期 間	担 当 者	備 考		
		必修	選択									
コ モ ン ・ バ ー シ ッ ク ス	健 康 と 余 暇	健康余暇論		2	1		◎		後期	赤田信一	2 単位以上	
		健康行動学 (健康・医療心理学)		2	1				後期	赤田信一		
		スポーツ実技 I		1	1		◎	◎	前期・後期	祝原 豊(バスケットボール A・B)		
									前期・後期	伊藤麻希(ダンス A・B)		
		スポーツ実技 II		1	1		◎	◎	前期・後期	江間諒一(フィットネス A・B)		
									前期・後期	黒岩一雄(バドミントン A・B)		
		ヨガ I		1	1				前期	佐鳥明子(JU フィットネスインストラクター)		※単位互換科目
		ヨガ II		1	1				後期	佐鳥明子(JU フィットネスインストラクター)		※単位互換科目
エアロビクス I		1	1				前期	佐鳥明子(JU フィットネスインストラクター)	※単位互換科目			
エアロビクス II		1	1				後期	佐鳥明子(JU フィットネスインストラクター)	※単位互換科目			
コモン・ベーシックス全体から、さらに2単位を選択のうえ計 14 単位以上												
総 合 教 養 科 目	キ リ ス ト 教 と 人 間 の 理 解	キリスト教学	2		1		◎		後期	佐々木謙一	必修 2 単位を 含め 4 単位以上	
		キリスト教と現代社会		2	1				前期	佐々木謙一		
		人間と哲学		2	1				後期	佐々木謙一		
		人間と教育		2	1				前期	金田健司		
		人間と文学		2	1				後期	古郡康人		
		人間の心と行動		2	1		○		後期	永山ルツ子		
	現 代 社 会 と 国 際 理 解	人間と社会生活		2	1		○		前期	毛利康秀	4 単位以上	
		社会生活と法		2	1		○		後期	板倉美奈子		
		日本国憲法		2	1		○	◎	前期	板倉美奈子		
		経済と社会		2	1		○		後期	勝田佳裕		
		現代の国際社会		2	1		○		前期	服部慶亘		
		歴史と社会		2	1		○		後期	毛利康秀		
	科 学 と 環 境 の 理 解	異文化の理解		2	1				後期	鈴木 瑞	4 単位以上	
		生命の科学		2	1		○		前期	池谷和子		
		健康と栄養科学		2	1		○		前期	杉本富士子		
		自然と災害		2	1				後期	湯佐泰久		
	地 域 の 理 解	科学技術と地球環境		2	1				後期	雨谷敬史	4 単位以上	
		静岡の自然と環境		2	1				前期	湯佐泰久		
静岡の歴史と文化			2	1				前期	小和田泰経			
静岡の風土と文学			2	1				前期	古郡康人			
	地域創造フィールドワーク		2	1				後期	毛利康秀			
計 12 単位以上												
合計 26 単位以上												

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	社 会 福祉士	保 育 士	幼 稚 園 教 諭	期 間	担 当 者	備 考
		必修	選択							
基 礎 科 目	人間社会総論	2		1				前期	オムニバス	必修 10 単位を 含む 14 単位以 上履修
	人間学基礎	2		1				前期	佐々木謙一	
	心理学基礎 (心理学概論)	2		1				前期	桑島隆二	
	社会学基礎		2	1				前期	志田倫子(A)・毛利康秀(B)	
	経済学基礎		2	1				後期	菅 隆彦	
	経営学基礎		2	1				後期	川島美奈子	
	日本文化論基礎		2	1				前期	畑恵里子	
	英米文化論基礎		2	1				後期	狭間敏行	
	言語学基礎		2	1				後期	大槻知世(前半)・石山久美(後半)	
	社会福祉総論Ⅰ	2		1	◎	◎		前期	植田智也	
	社会福祉総論Ⅱ		2	1	◎			後期	植田智也	
	地域福祉論Ⅰ		2	1	◎			前期	梓川 一	
	地域福祉論Ⅱ		2	1	◎			後期	梓川 一	
数理・データサイエンス・AI 基礎	2		1				前期	中原陽三		
基 幹 科 目	保育原理Ⅰ		2	1		◎	◎	前期	永倉みゆき	30 単位以上 選択履修
	保育原理Ⅱ		2	1		◎	◎	後期	永倉みゆき	
	教育原理		2	1		◎	◎	前期	金田健司	
	幼児教育課程総論		2	2		◎	◎	前期	加藤寿子	
	ソーシャルワーク論Ⅰ		2	2	◎			前期	栗原拓也	
	ソーシャルワーク論Ⅱ		2	2	◎			後期	栗原拓也	
	ソーシャルワーク論Ⅲ		2	2	◎			前期	梓川 一	
	ソーシャルワーク論Ⅳ		2	2	◎			後期	梓川 一	
	高齢者福祉論		2	2	◎			前期	植田智也	
	介護概論		2	2	◎			後期	大村貴美	
	障害者福祉論		2	2	◎			前期	梓川 一	
	社会保障論Ⅰ		2	2	◎			前期	中澤秀一	
	社会保障論Ⅱ		2	2	◎			後期	中澤秀一	
	公的扶助論		2	2	◎			前期	佐々木隆志	
	社会理論と社会システム		2	2	◎	○		後期	志田倫子	
	福祉サービスの組織と経営		2	2	◎			後期	青山登志夫	
	医療福祉論		2	2	◎			前期	植田智也	
	社会調査法		2	2	◎			前期	志田倫子	
	児童家庭福祉		2	2	◎	◎	○	後期	川島貴美江	
	保育内容総論		1	2		◎	◎	前期	池田邦子	
	社会的養護		2	2		◎	○	前期	川島貴美江	
	保育の心理学		1	2		◎	○	後期		
	教育・学校心理学		2	2			○	後期	林 智幸	
	発達心理学		2	2		◎	○	前期	片岡 祥	
	子どもの食と栄養Ⅰ		1	2		◎		前期	杉本富士子	
	子どもの食と栄養Ⅱ		1	2		◎		後期	杉本富士子	
子どもの保健		2	2		◎		前期	片川智子		
保育内容論－健康		2	2		○	◎	前期	田口喜久恵		
保育内容論－人間関係		2	2		○	◎	前期	志田倫子		
保育内容論－環境		2	2		○	◎	前期	徳浪芳江		
保育内容論－言葉		2	2		○	◎	前期	池田邦子		
保育内容論－表現		2	2		○	◎	前期	内山尚美		

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	社 会 福祉士	保 育 士	幼 稚 園 教 諭	期 間	担 当 者	備 考
		必修	選択							
基 幹 科 目	教師論		2	1			◎	後期	金田健司	30 単位以上 選択履修
	教育社会学(中・高)		2	1				後期	金田健司	
	教育社会学(幼)		2	1			◎	後期	上地香杜	
	教育方法論(ICT 活用の理論と実践を含む)		2	2				前期	園田明人	
	幼児教育の方法と技術		2	2			◎	前期	加藤寿子	
	社会・集団・家族心理学		2	2				後期	波多野純	
	心理学特殊講義		2	2				前期	林智幸・波多野純・桑島隆二	
展 開 科 目	人体の構造と機能及び疾病		2	3	◎			前期集中	鈴江 毅	40 単位以上 選択履修
	心理学		2	3	◎			前期	片岡 祥	
	ソーシャルワーク論Ⅴ		2	3	◎			前期	栗原拓也	
	ソーシャルワーク論Ⅵ		2	3	◎			前期	川島貴美江	
	司法福祉論		2	3	◎			前期	津富 宏・飯田智子	
	権利擁護を支える法制度		2	3	◎			後期	青山登志夫	
	スクールソーシャルワーク論		2	3				後期	栗原拓也	
	ソーシャルサービス・イノベーション演習		1	3					開講せず	
	社会福祉特講Ⅰ		2	4				前期	梓川 一	
	社会福祉特講Ⅱ		2	4				後期	梓川 一	
	子ども家庭支援論		2	3		◎		前期	川島貴美江	
	生活学		2	3		○		前期	犬塚協太	
	精神保健論(精神疾患とその治療)		2	3				前期集中	鈴江 毅	
	総合リハビリテーション論		2	3		○		前期	橋本尚幸・山内一之	
	介護技術論		2	3		○		後期	木林身江子・大石桂子	
	老年学		2	3				前期	植田智也	
	女性福祉論		2	3				前期	廣瀬志芽子	
	NPO 論		2	3					開講せず	
	臨床心理学概論		2	2				後期	桑島隆二	
	レクリエーション論Ⅰ		2	3				前期	青野宏子	
	レクリエーション論Ⅱ		2	3				後期	青野宏子	
	体育・表現		1	2		◎	○	後期前半	田口喜久恵	
	音楽療法入門		2	2		○		後期	山田美代子	
	海外福祉現地研究		2	1				後期集中	栗原拓也	
幼児理解		2	3		○	◎	前期	田口喜久恵		
保育内容演習－健康		1	2		◎	◎	後期前半	田口喜久恵		
保育内容演習－人間関係		1	2		◎	◎	後期	徳浪芳江		
保育内容演習－環境		1	2		◎	◎	後期	徳浪芳江		
保育内容演習－言葉		1	2		◎	◎	後期後半	池田邦子		
保育内容演習－表現		1	2		◎	◎	後期	内山尚美		

授 業 科 目	単位数		開講 学年	社 会 福祉士	保 育 士	幼 稚 園 教 諭	期 間	担 当 者	備 考
	必修	選択							
教育・保育相談		1	3		◎	◎	後期		
ピアノ教育		1	1		○	○	前期・後期	大木恵子・久賀谷洋子・菊池み ち子・山田美代子・内山尚美	
音楽表現		1	1		◎	○	前期・後期	山田美代子	
歌唱伴奏法		1	2		○		前期・後期	内山尚美(A 前期・B 後期)	
造形 I		1	1		◎	○	前期	木俣創志(A・B)	
造形 II		1	1		○		後期	木俣創志	
乳児保育 I		2	1		◎		前期	池田邦子	
乳児保育 II		1	1		◎		後期	池田邦子	
障害児保育 I		1	2		◎		前期	今泉依子	
障害児保育 II		1	2		◎		後期	今泉依子	
子どもと言葉		1	2		◎	○	後期	池田邦子	
社会的養護内容		1	2		◎		後期	川島貴美江	
子ども家庭支援の心理学		2	3		◎		前期	小林佐知子	
ミュージカル I		2	3		○		前期	内山尚美	
ミュージカル II		2	3		○		後期	内山尚美	
国際福祉		2	1				後期	鈴木 瑞	
相談援助演習 I		1	2	◎			前期	梓川 一・鈴木 瑞	
相談援助演習 II		1	2	◎			後期	植田智也	
相談援助演習 III		1	2	◎			後期	栗原拓也	
相談援助演習 IV		1	3	◎			前期	増田京子	
相談援助演習 V		1	3	◎			後期	梓川 一	
スクールソーシャルワーク演習		1	4				前期前半	増田京子	
ソーシャルワーク実習指導 I		1	2	◎			後期	植田智也・梓川 一・栗原拓也・ 鈴木 瑞	
ソーシャルワーク実習指導 II		1	3	◎			前期	植田智也・梓川 一・栗原拓也・ 鈴木 瑞	
ソーシャルワーク実習指導 III		1	3	◎			後期	植田智也・梓川 一・栗原拓也・ 鈴木 瑞	
ソーシャルワーク実習 I		1	2	◎			後期集中	植田智也・梓川 一・栗原拓也・ 鈴木 瑞	
ソーシャルワーク実習 II		5	3	◎			前期集中	植田智也・梓川 一・栗原拓也・ 鈴木 瑞	
スクールソーシャルワーク実習指導		1	4				通年	栗原拓也	
スクールソーシャルワーク実習		2	4				集中	栗原拓也	
子どもの健康と安全		1	3		◎		後期	片川智子	
感情・人格心理学		2	3				後期	林 智幸	
障害者・障害児心理学		2	3				後期		
心理的アセスメント		2	3				後期	桑島隆二	
教育相談（心理学的支援法）		2	3				前期	桑島隆二	
福祉心理学		2	3				後期	波多野純	
司法・犯罪心理学		2	3				後期	ジェイムス朋子	
産業・組織心理学		2	3				後期	波多野純	
心理演習		2	4				後期	桑島隆二	
心理実習		2	3				集中	桑島隆二・林 智幸・波多野純	

40 単位以上
選択履修

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	社 会 福祉士	保 育 士	幼稚園 教諭	期 間	担 当 者	備 考
		必修	選択							
展 開 科 目	保育実習Ⅰ（保育所）		2	2		◎		後期集中	山田美代子・内山尚美・池田邦子	40 単位以上 選択履修
	保育実習Ⅰ（施設）		2	3		◎		後期集中	川島貴美江・植田智也	
	保育実習Ⅱ		2	4		☆		前期集中	内山尚美・池田邦子・山田美代子	
	保育実習Ⅲ		2	4		☆		前期集中	川島貴美江・栗原拓也	
	保育実習指導Ⅰ（保育所）		1	2		◎		後期	山田美代子・内山尚美・池田邦子	
	保育実習指導Ⅰ（施設）		1	3		◎		後期	川島貴美江・植田智也	
	保育実習指導Ⅱ		1	4		★		前期	内山尚美・池田邦子・山田美代子	
	保育実習指導Ⅲ		1	4		★		前期	川島貴美江・栗原拓也	
	幼稚園教育実習指導		1	3			◎	前期	池田邦子・山田美代子・内山尚美	
	幼稚園教育実習		4	3			◎	前期	池田邦子・山田美代子・内山尚美	
	保育・教職実践演習（幼稚園）		2	4		◎	◎	後期	内山尚美・川島貴美江・田口喜久恵	
	ICTと福祉		2	1				前期	中原陽三	
	障害者スポーツ		2	1				後期	黒岩一雄	
	キャリア形成論		1	1				前期	波多野純	
	インターンシップ		1	3				集中	波多野純	
	キャリアスタディ		2	2				後期	中原陽三	
	キャリアデザイン演習Ⅰ		1	3				前期	中原陽三	
	キャリアデザイン演習Ⅱ		1	3				後期	中原陽三	
	基礎科目、基幹科目、展開科目全体からさらに4単位を選択のうえ88単位以上									
演 習 科 目	基礎演習Ⅰ	1		1				前期	中原、山田、金田、志田、池田、鈴木	
	基礎演習Ⅱ	1		1				後期	中原、山田、金田、志田、池田、鈴木	
	基礎演習Ⅲ	1		2				前期	中原、金田、志田、栗原	
	基礎演習Ⅳ	1		2				後期	中原、金田、志田、鈴木	
	専門演習Ⅰ	1		3				前期	中原、川島、山田、梓川、金田、内山、志田、池田、栗原、鈴木	
	専門演習Ⅱ	1		3				後期	中原、川島、山田、梓川、金田、内山、志田、池田、栗原、鈴木	
	卒業研究	4		4				通年	中原、川島、山田、植田、内山、志田、池田、栗原、鈴木	
合計 98 単位以上										

◎必修科目 ○選択必修科目

保育士資格について

専門教育科目の○から6単位以上選択必修。

☆と★は、それぞれⅡ、Ⅲのうち、どちらか同じ数字のものを合せて3単位選択必修。

幼稚園教諭免許について

「教育・学校心理学」または「発達心理学」のうちどちらかを選択必修。

資格に関する科目選択については、該当するページの説明を参照。

静岡英和学院大学及び静岡英和学院大学短期大学部 情報システム委員会規程

（設 置）

第 1 条 静岡英和学院大学及び静岡英和学院大学短期大学部（以下「本学」という。）に、情報システム委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（目 的）

第 2 条 委員会は、情報処理に係る教育と研究及び学生の数理・データサイエンス・AI教育を円滑かつ効率的に推進するために、必要な事項に関し学内の連絡調整を図ることを目的とする。

（審議事項）

第 3 条 委員会は、前条の目的を達成するため、次の事項を審議する。

- (1) 情報処理教育の推進に関する事項
- (2) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(以下「プログラム」という。)の学習内容、授業科目構成、修了要件に関する事項
- (3) プログラムの自己点検・評価に関する事項
- (4) プログラムの情報公開に関する事項
- (5) その他必要な事項

（組 織）

第 4 条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 本学の教務部長 各 1 名
- (2) 本学の各学科から選出された教員 各 1 名
- (3) 学務部学部事務室職員のうち、学務部長が指名した者 若干名

2 前項第 1 号及び第 2 号の委員の任期は、2 年とする。ただし、再任は妨げない。

（委員長）

第 5 条 委員会に委員長及び副委員長を各 1 名置く。

2 委員長は、教務部長のうち、委員会で選出された 1 名をもって充て、副委員長は、もう 1 名の教務部長をもって充てる。

3 委員長は委員会を招集しその議長となる。

4 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。

5 委員会の会議は、委員の 3 分の 2 以上の出席により成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

6 委員会は、会議の運営上必要と認めるときは、委員以外の教職員等を出席させることができる。

7 委員長は必要があると認めるときは、学外の専門家の出席を求め、その意見を聴くことができる。

（事 務）

第 6 条 委員会の事務は学務部学部事務室が行う。

（改 廃）

第 7 条 この規程の改廃は、本学教授会の議を経なければならない。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成28年11月30日から施行する。

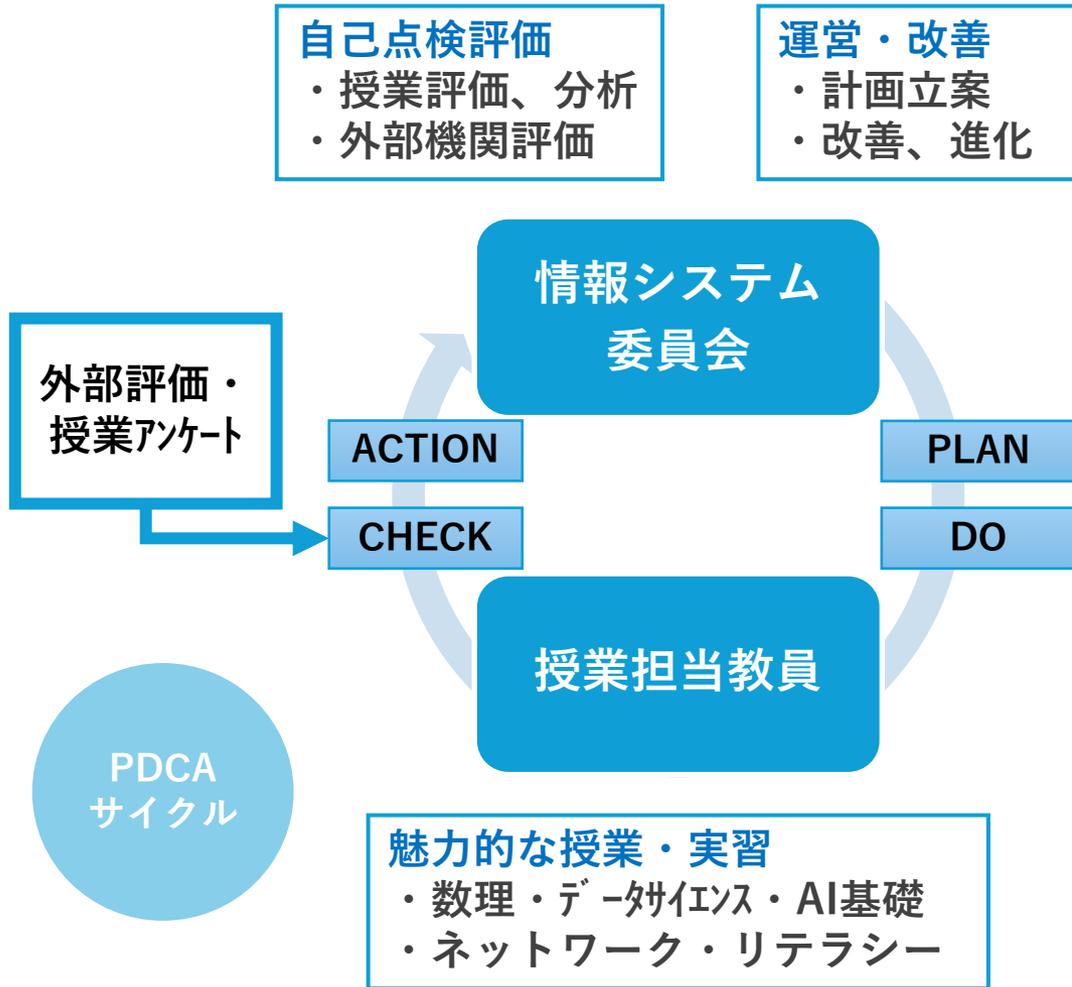
附 則

この改正は、令和5年4月1日から施行する。

大学等名	静岡英和学院大学
教育プログラム名	数理・DS・AI基礎プログラム（英和LL）

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和6年度

取組概要



【プログラムの目的】
 数理・データサイエンス(DS)・AIを日常生活や仕事等の場で、適切に使いこなす基礎的素養を持った学生を育成する。

【身に付けられる能力】
 数理・DS・AIが社会で活用されている現状と今後の可能性を具体的に知り、日常生活や仕事等で適切に使えるようになる基礎的能力が身に付く。